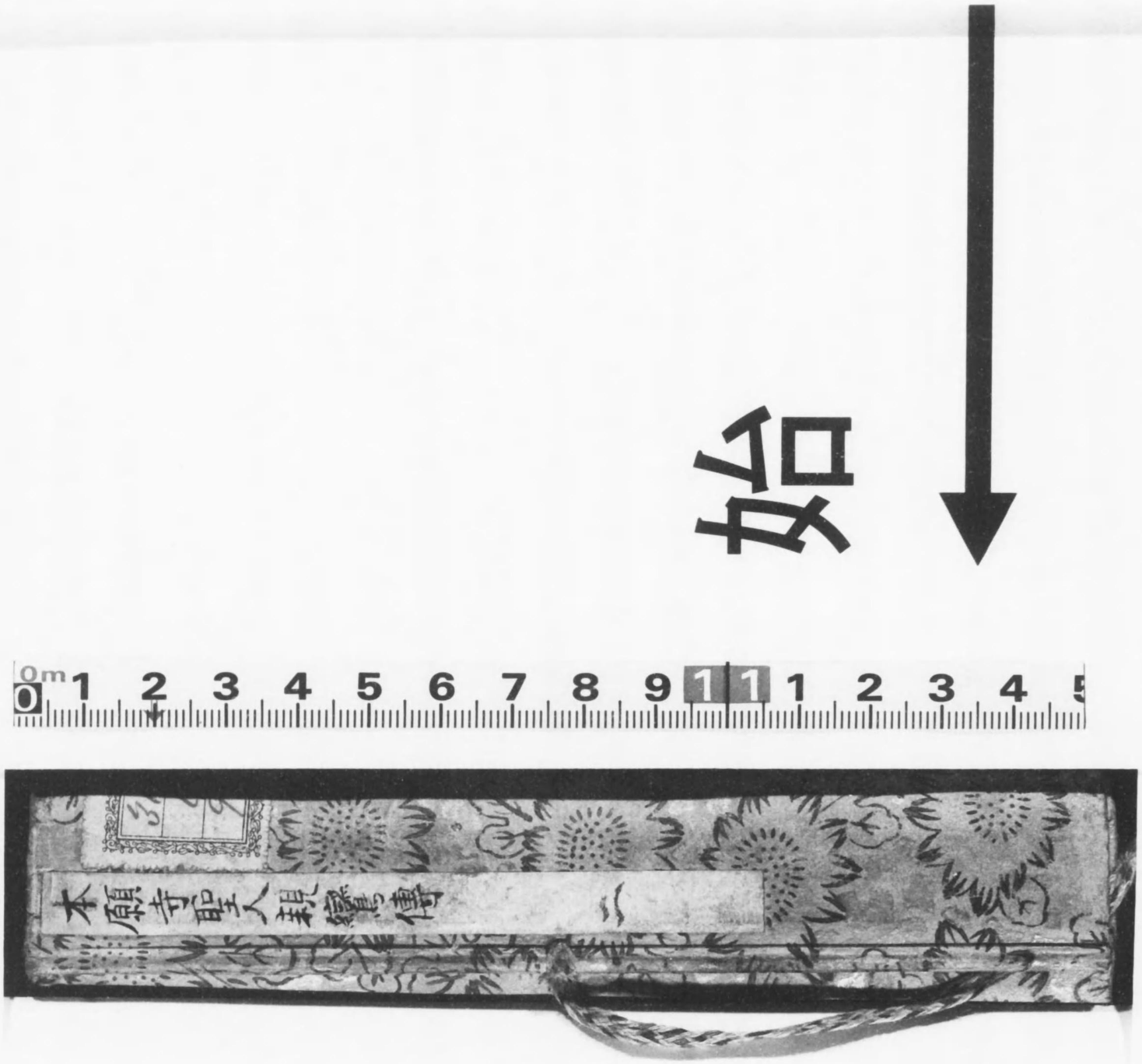
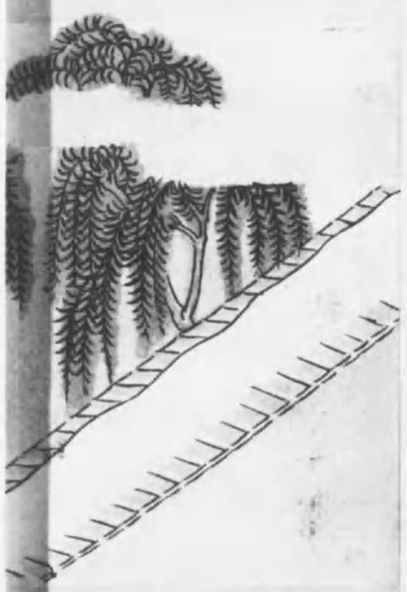
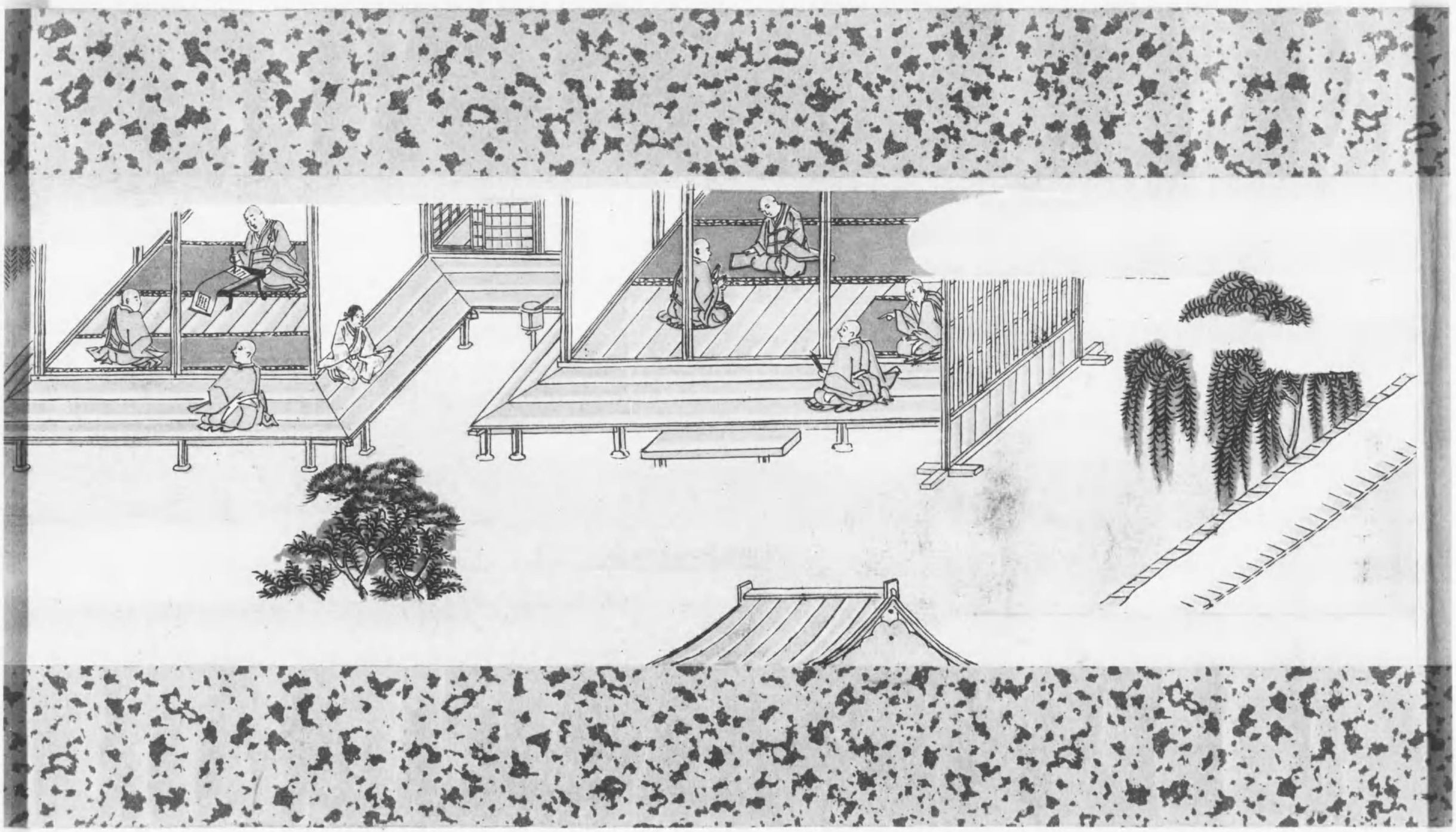

本願寺留主人
親鸞聖人傳

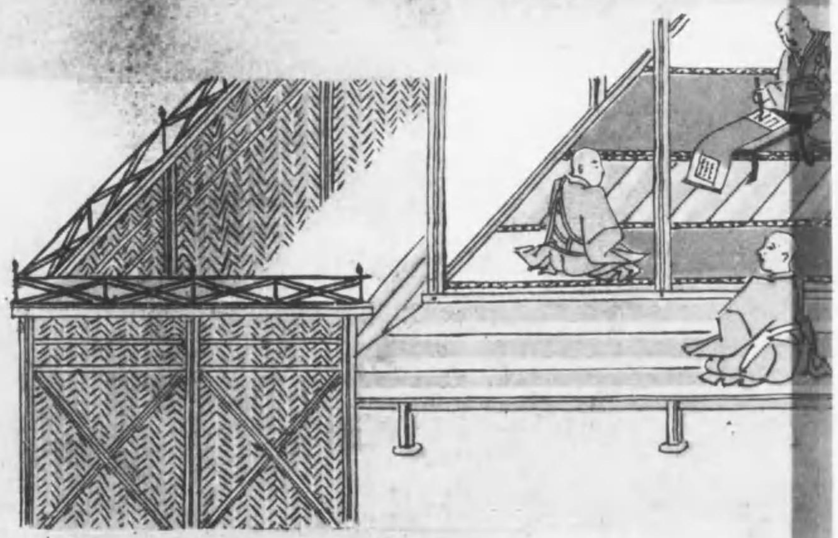
318
4
92

是者の先德 法然聖人 在世れしより給
乃傳教時等異議許と雖て義絶
せ見写し奉時も素懷を降く
名字と書物に次もれいち頭注左
方便化身去文類六云 選述 教學聖人 述
釋寛遠仁 京 房 棄離行 宮歸本願
元久 七歳 寛月一想 方書選擇同年
初夏中旬第四日 選擇本願之集
内記字并南无阿弥陀佛注之業
念佛為本 白釋綽空以 空 之業 人書
之同日空く真影申預奉畫畫

同乾字并南无阿弥陀佛注之集
念佛為本白釋綽空以字之業念書
之同日空く真影申願奉畫
同二年閏七月下旬第九日真影銘
以之業念書南无阿弥陀佛注之義
聞佛十方衆生稱我名号下至十
教為不生者ふ法蓮華経彼経現
世聞佛當成佛不虛者
稱念必得往生之文又依夢告
汝綽空字同日以浄土之文
之字畢本師聖人と申す七旬之
御歳也選擇本願念佛集者法
禪定博陸（月輪殿兼実 法名圓照）之教命念選集
や真宗之簡要念仏の奥義殆至
于斯也者易行淑乱希有嘉祥
之華文无上甚深の宗典也浄
年浄月家其教誨之人雖多高
云親鸞は見写し信証の難
余既書写畢作為真真影之銘
四条の流や是浄土法注之源也
仍結縁者く願注由来之縁

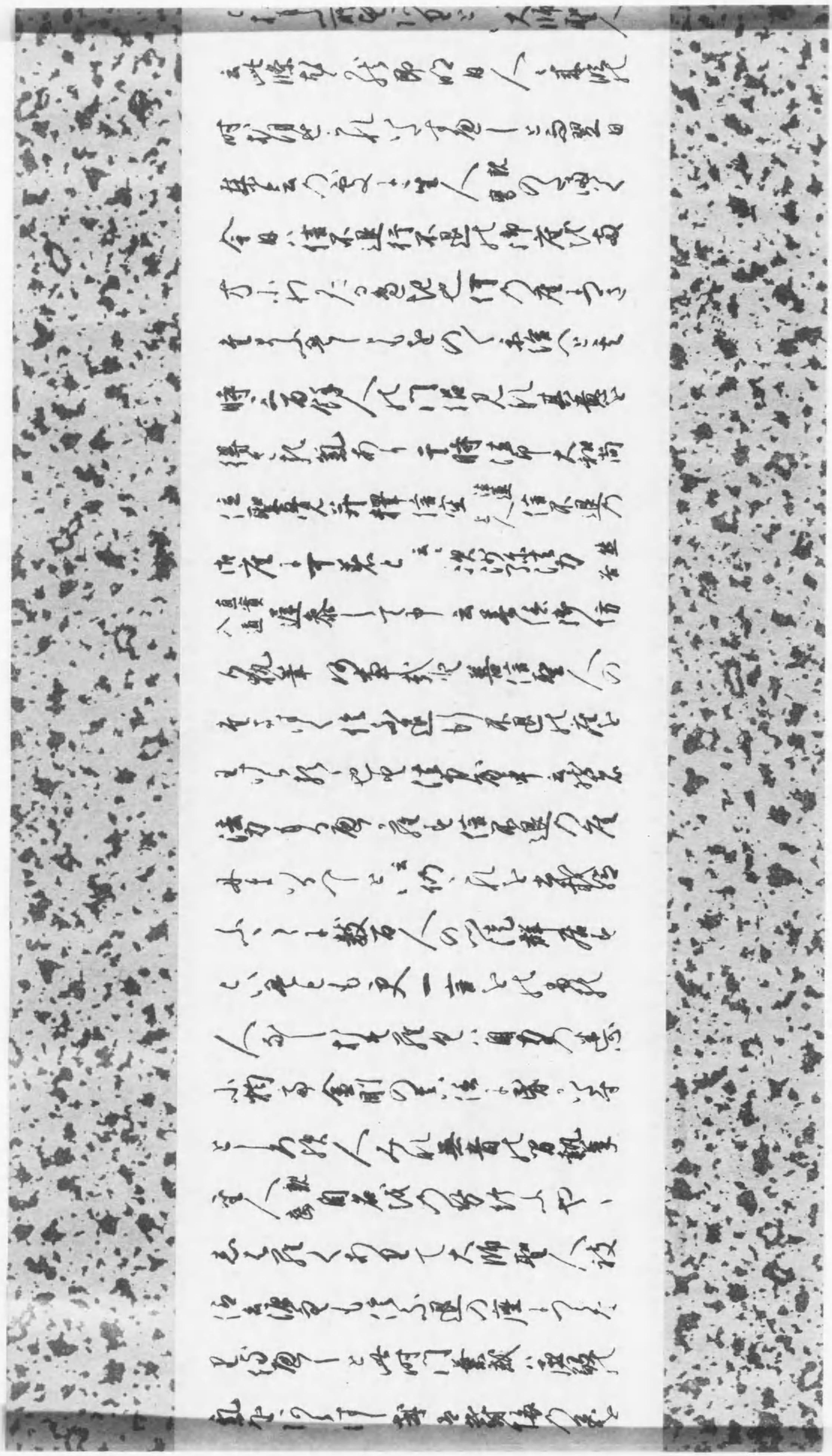


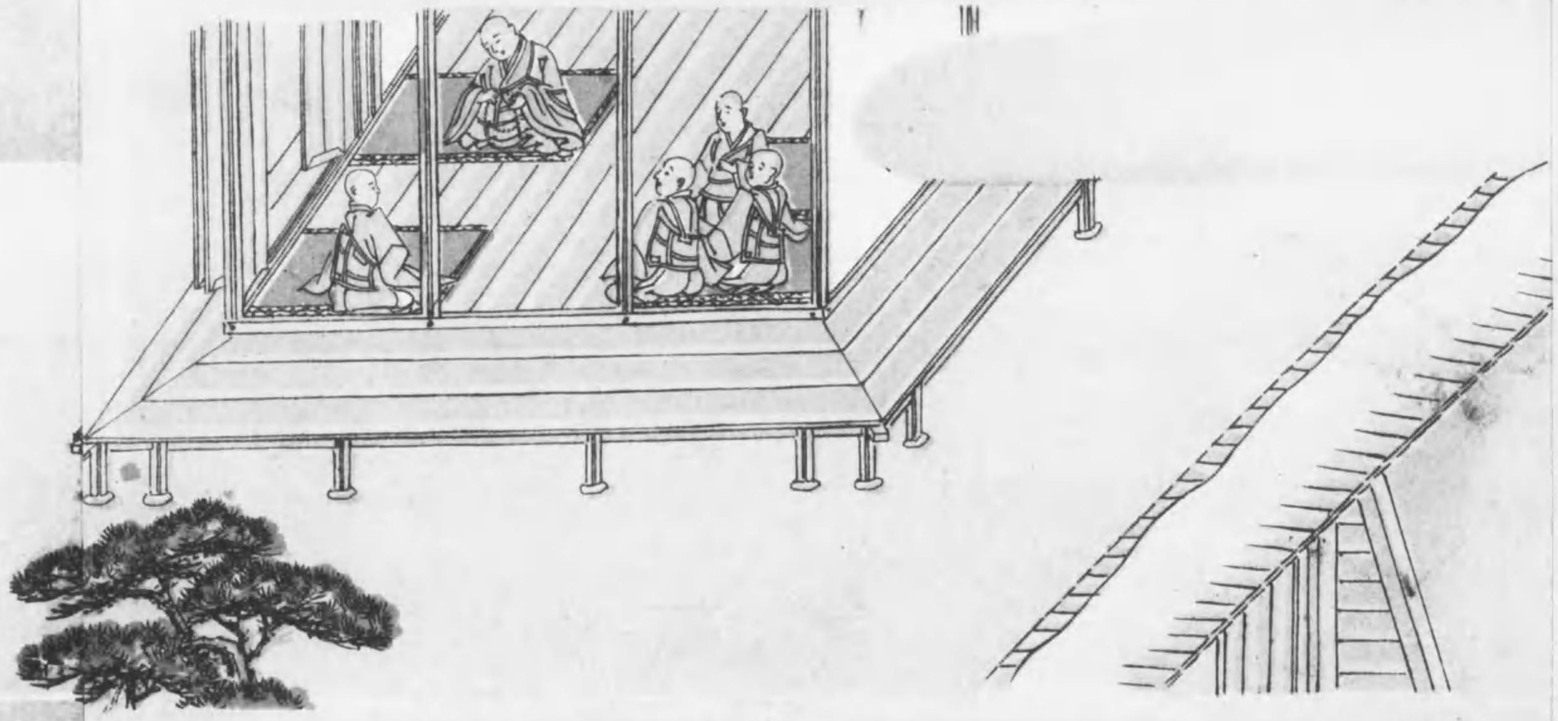




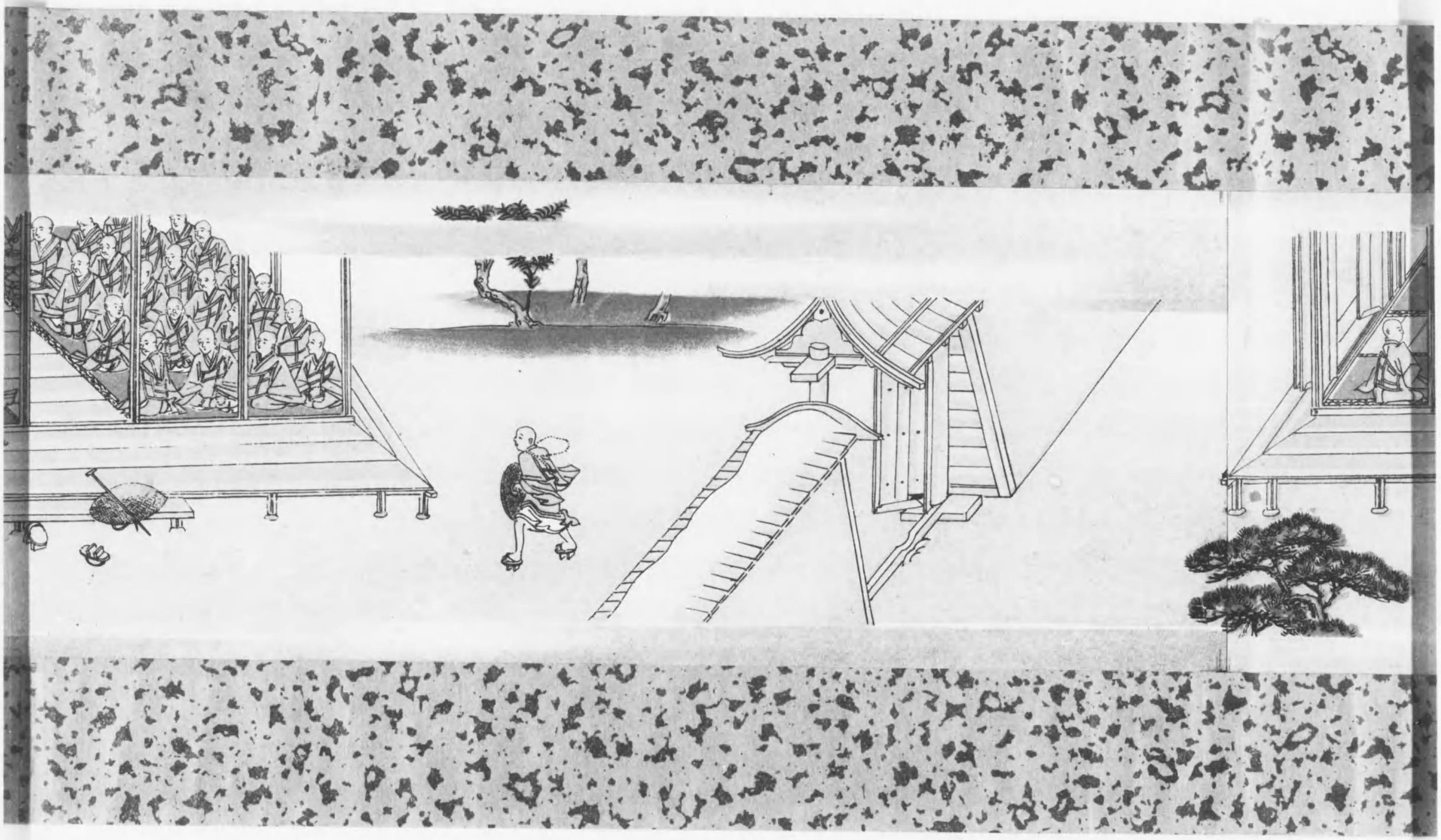
[illegible]
し人他力往生ぬしれとれる事
給ふ事あまねく[illegible]
と人ことくや賜し[illegible]者
其力敢て重き[illegible]細しき[illegible]
金樹寺の墓[illegible]
三槻九株代道を正する家ふ
玉に四十八願の月をそなへ
物しの見なしに我れ代[illegible]
民の類これをあふぎ[illegible]
[illegible]
[illegible]門前市をなす事
昨近の猫化物のごとき[illegible]都に
百八十餘人とぞ[illegible]いへ
也も親それ化とう者[illegible]
誨ふ事[illegible]

仏の名をしる門前市をなす事程
距近の緇徒のみならず都ニ
百八十餘人と云ふ事なれども
心も親切に化とう多勢の
誘ひまゐらせけるにうけがはれなり
また小五郎事丹波を
善信房人数所中なるべく事
数行乃至国々へ
聖道門法道ゝ法門ふらし
もゝ米并命を惜にあらずとも
は堂舎新所龍の良国と嘉武
書代中の悦行事の如之ものるか
同室の初と結る此ゝ一師
諸法あるかゝもゝ長れ多此
いそゝもゝ実ゝ報去清宗の法
仏眼をもんゝと自此わるべく
ものゝ〻れ沙人ゝ且ハ高素
の親友なる程と忘しわ是を活
また思おもゝ法伝ゝ侍
弟子業集の加ゝ
ゝ法ゝ面ゝの趣も試し
ゝ所ゝ行ゝ大師聖人
云此除ゝ我即日人ゝ来
時有ゝれゝす也しと当望日
来云ゝ人数宮ゝ
今日八信不退行不退行御座





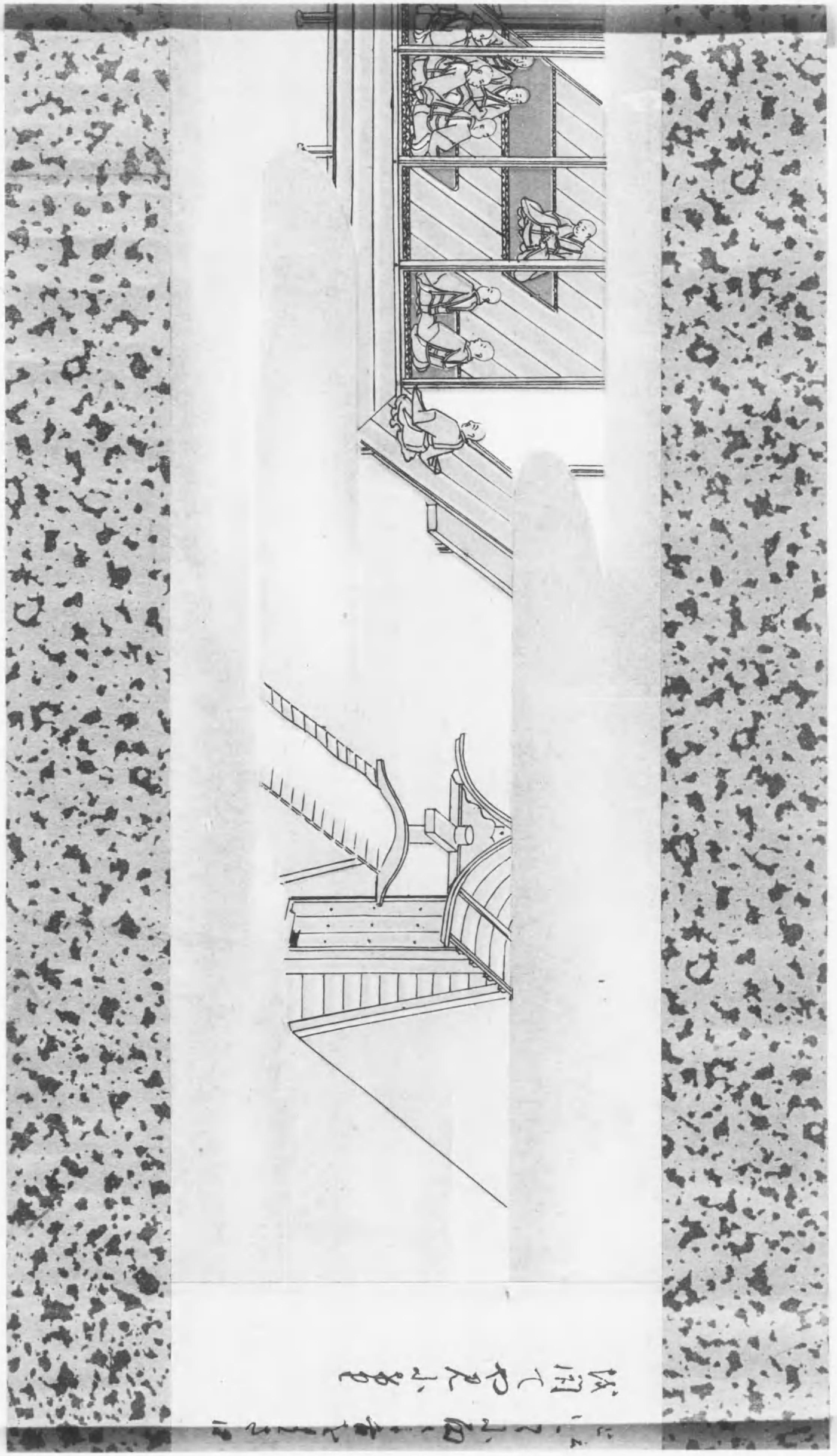
志ある人なくわたて大師聖人被
仰給ふ通の座とつくた
とは信心一と世間門業越八面鏡に
乳をはつ事を賛仰乃ものを
ぬくもの

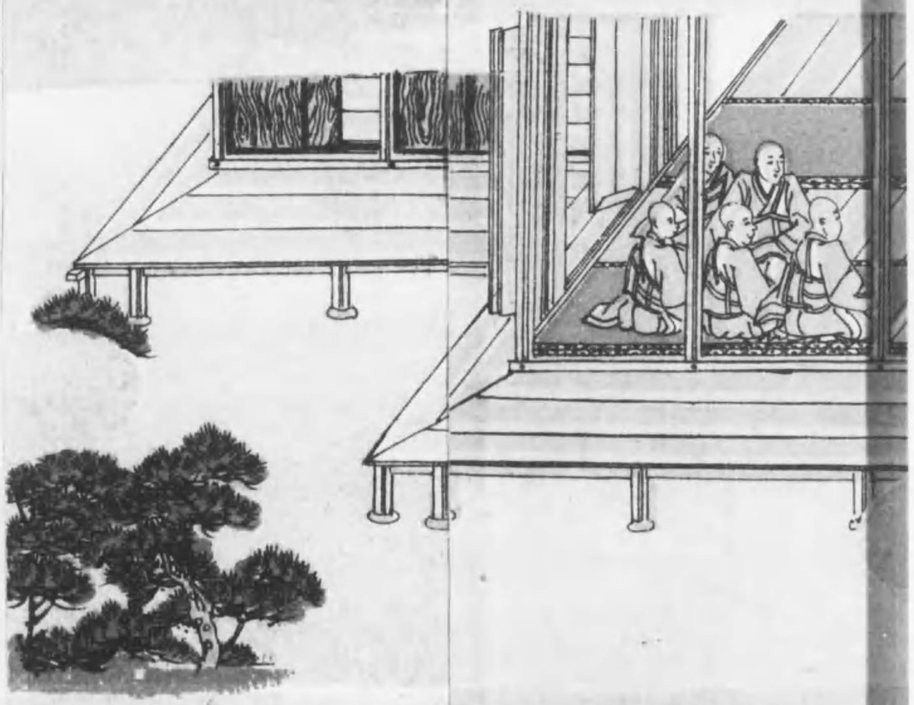


聖人親鸞のたまはく親鸞大師聖人
法然聖人の御ものの聖法然房
念佛房以下の人々と諸宗
時々わかれ論議しけんそう
事あるべきを聖人の法
ぜと善信の信心と勝もかりる所
あれへ決定一也此中善
しふは人々とりのそいはく善信
境界人の御信心とまことの信心
ひとしくまことにいたるなり
御記しるしたまふさと善信申
云なくひとと申さるへ其
故八宗諸師ひとりかしこ
まうけ云こそ尚とふかけなく
ものの法生の信心はいたりて

八一 法然聖人と親鸞

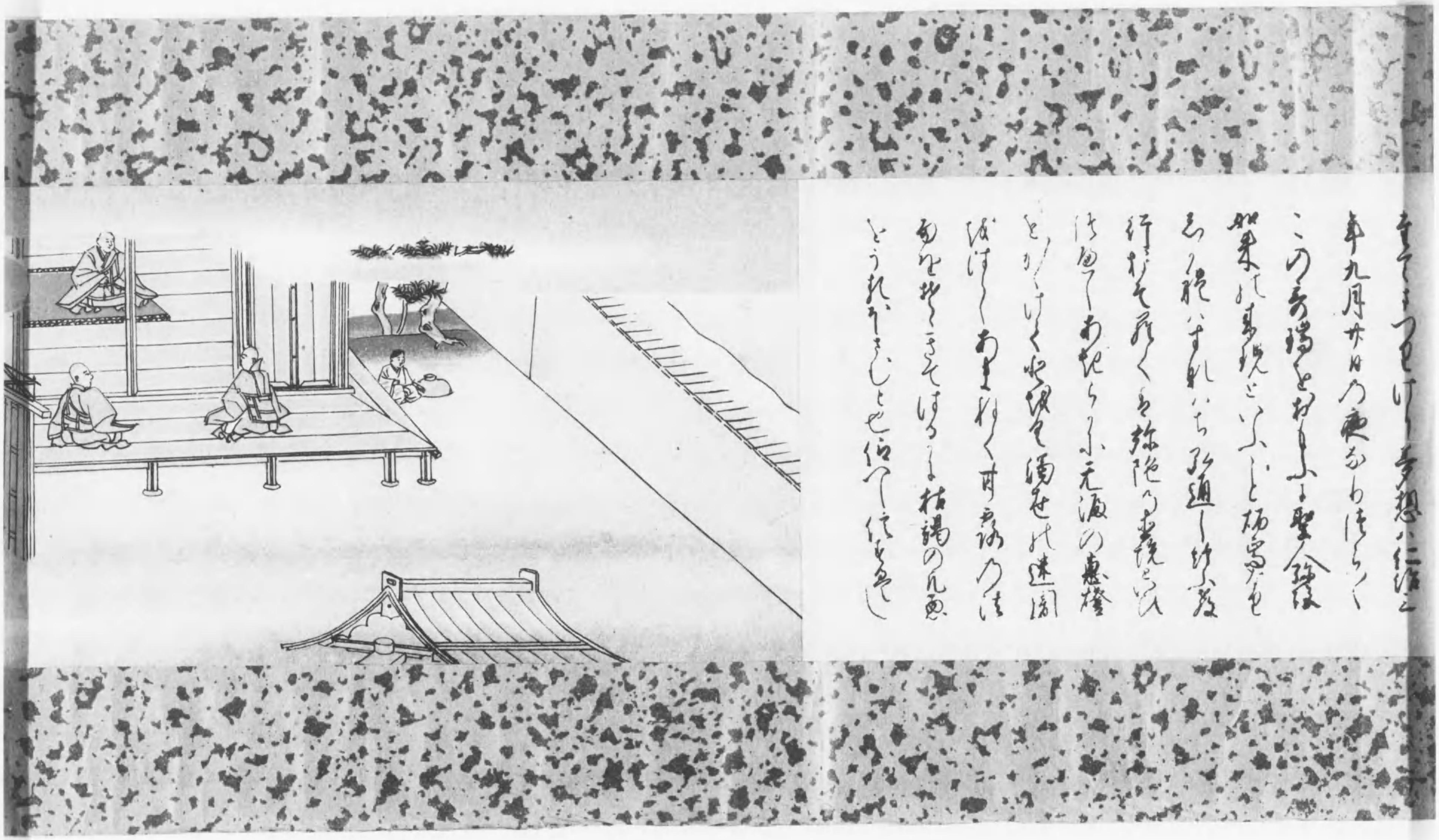
故に深く悔恨し
まうらせ、そ南とふをすけるく
をもくの注生の信心よいたりて
一ゑに他力法門ことなるを
しるべうるさまたく私ゐ
聖人の御信心も他力をもて
なり諸善・信心も他力也
おれ・往生をねとしやすくかなる
ぬ、うなすと申也と申伝る歟
ゑ大師聖人まうく被仰云信
ぬ、けるとは自力信心をもて
の事也ゆゑに他力法門各別なる
毒に信心多分也他力法門信心は善
悪乃凡夫をもて佛のさとりを往
生信心なきは源空の信心を
善信は信心も更かるへ
次第一期のあ
法をふあすけんかけり
けるのおりまをんく
報まいし法をへはをもよりを
行し給をうらるへきもの也
どいこゝふ西くゝ音をもさは
試用てやはふ者也



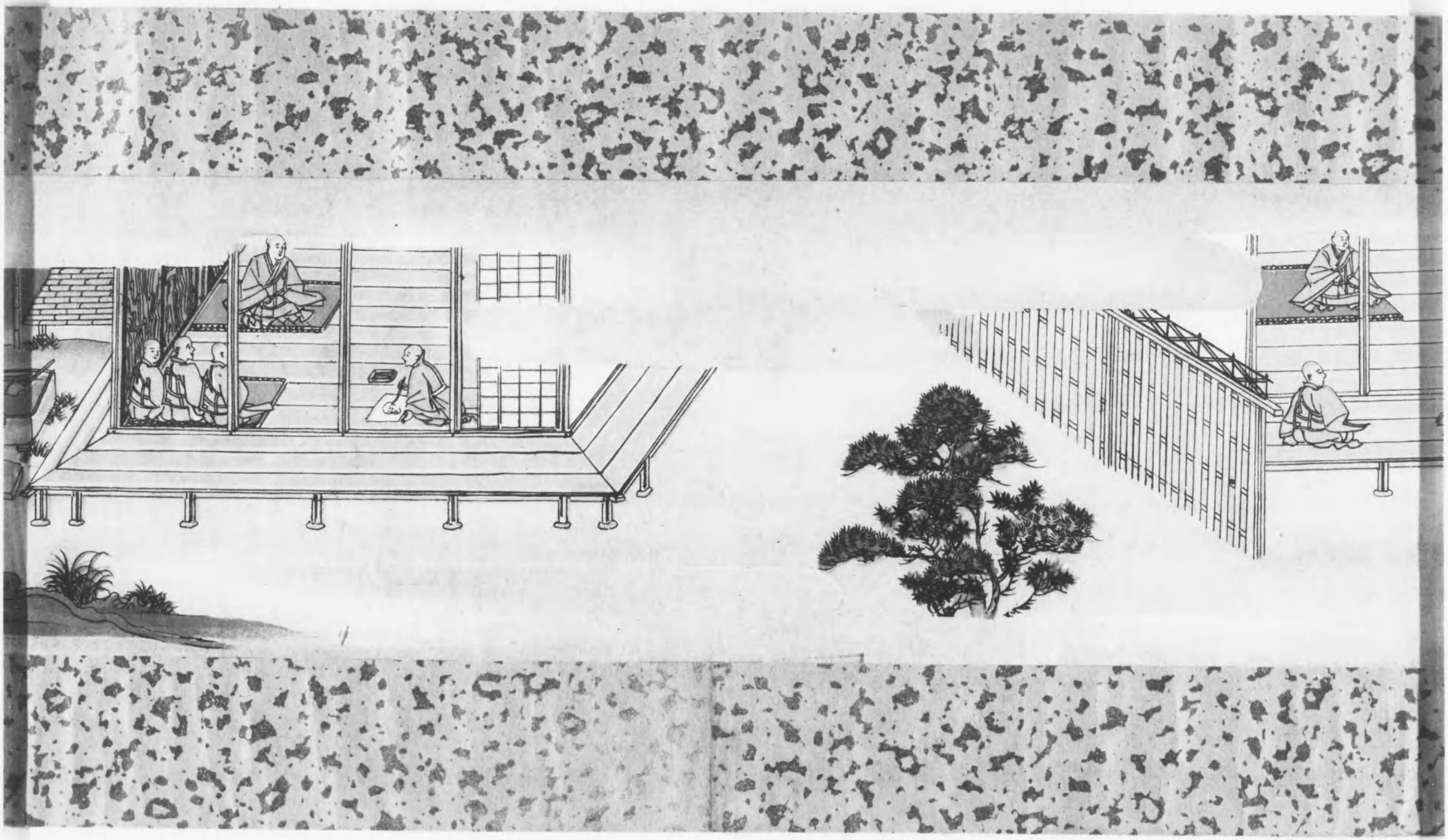
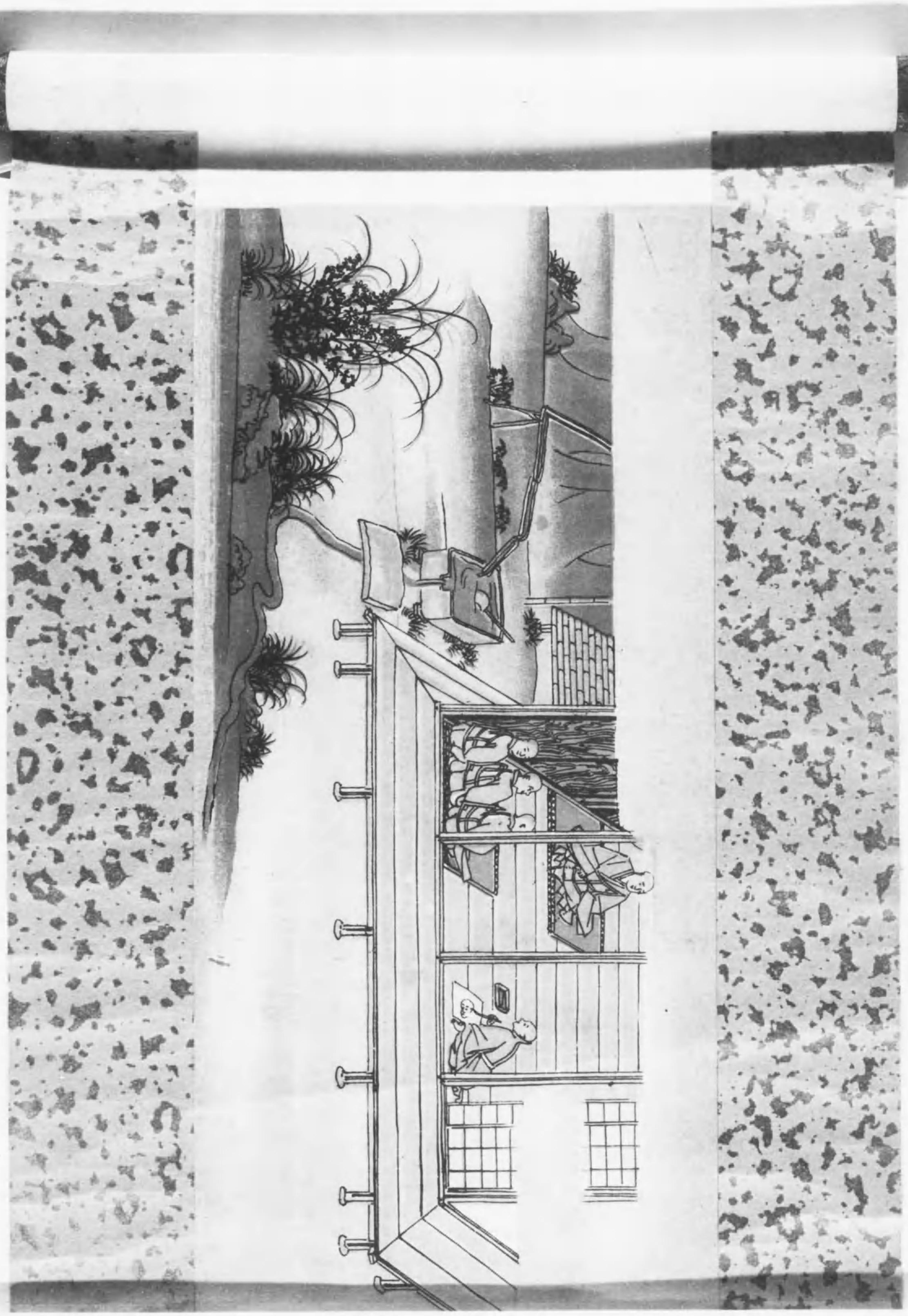


御弟子入道房聖人親鸞の夢想と
うけたまはりしかば、おもくは来生の
あるべくは来生の人
をもて、今生の人
信せられぬるまゝ定禅寺
古京道
小居住みうつさしむ西方
鑒察乃し私を陸奥してもの祝
法師福成義清を召請
まいりぬすむわち芳賀
をてまはりくゆ玄東寺特
の雪夢どなん感もるとこ方
ろれ著す小祥したてまはれ
どこ後乃聖法の面像
角ちまつれ客貝
小さこ石ゆしどこ

どこしの聖法の面像いまもうつ
あらまつれ容貌ますしこたつ
ふさこゝろ如しとなして忽法表
戒戒を法して見つる義夢
とかゝる貴僧二人来へ法一人の
僧のゝ面ゝくは仏法の高徳と
うけ及しのしも男ふ志あり
れのわを禅下ねてとくすて
心宗禄間ていはく彼仏法法人
きや仏法云善人の印解者
毛也心変宗祿掌と法の世脱
て此の中ふ積りくを
生身ふ孫後ほの来ふしもとを
いたらて恭敬尊を法を又
ぬをは毛法うつこれんを
ぬををいかくのこ心を冥法
護して夢さの成りの也の新ふ
今は法仏しまりをてを見をて
ける宗容夢仲の在法こをこ
しをさの心ふて陸善れをも
滅となれを見ふ夢身海を
角して御くく法を宮
をてまつをけ夢想ハ仁法と
年九月廿日の夜ふりたらく
この宗場とおもふ聖人法
如来ふ事法ふと如宗を



寺にまつりけり夢想の仁法
年九月廿日の夜あわれらく
この霊場をおもふに聖人錫杖
紫雲の奇瑞をふしと仏号をも
ちの花はなれいち弘通し給
行ひをあらくも弥陀の慈悲に
法華あれらふ元海の惠燈
とかけく必ず迷闇
ばけ〳〵あまねく衆生の法
面をぬぐはるる枯渇の凡夫
とうれかしとぞ仰て信をぬ



落